

## 日本の分断・アメリカの分断 令和三・一・二二

加藤淳平

現在の日本は二つに分断す。一は敗戦後の、アメリカ占領下の思考の強制下に、日本の傳統文化と、大東亞戦争に至る日本の行動を否定的に見、アメリカによる占領を肯定的に稱揚する者ら、他は占領下のアメリカの日本人洗脳を批判し、大東亞戦争の意義を認むる者なり。後者、「愛國的」日本人より見れば、前者は「侮日的」日本人ならずや。

前者に、戦前より歐米の學問・文化を學び、自らの見識に基づき、昭和の戦争に批判的姿勢を持し續けたる者、無きにしも非ず。されど多くは、占領アメリカ軍に追従し、或いは占領下に洗脳せられたる者にして、良く言はば「素直なる」者、悪く言はば「権力者に迎合したる」者ならむ。

敗戦直後の日本に、日本批判的、侮日的言説、世を壓せり。そは、我ら日本人の、全靈・全力を盡したる戦争に、敗北せる衝撃、如何ばかりなりしかを示すならむ。日本は畢竟、「神の國」ならざりき。空襲により破壊せられたる國土に、進駐し來たれる丈高く、體格良きアメリカ軍人ら、血色良く、きびきびと行動す。それを見て、榮養半ば失調せる日本人、深き敗北感に囚れたるに非ずや。

日本を占領せるアメリカ人、日本の、傳統的思考と文化と宗教を全否定し、「自由」、「平等」、「民主主義」の歐米的原理こそ、人類の、汎く信奉すべき普遍的價值なれ、と説けり。斯くて我ら日本人、歐米的原理は、我ら自身の、古來守り來れる文化・原理より、傑れたるやと、疑ひ始めたるのみか、一部の者に至りては、古來の文化を棄て、代りにそれを信奉せんとす。歐米人に迎合して、「侮日的」態度すら、身に附けたるもありき。この人ら、日本は歐米より「遅れ」、未だ「近代化」せざる「封建的」國なれば、極力歐米に學びて、速やかに「近代化」すべしと、講説するに至れり。

但し敗戦直後の、深き絶望と喪失感の故に、斯く、「侮日的」思考に誘導せられたる日本人なりしも、尠からざる者、その後の日本の目覺しき發展により、自信を回復せり。斯くてアメリカ占領下の、「侮日的」思考、年とともに強制力を弱め、今日それを脱したる者、少くとも、日本人の半ばに垂んとするに非ずや。

今も日本の言論、教育、學問に、占領軍の唱導せる歐米的價值觀を至上視し、日本の、傳統文化・思考を蔑視する「侮日的」言説、なほ強く残る。然りと雖も、之に同調せざる「愛國的」日本人、亦少からず。現在の日本二つに分断すと、上に述べたる所以なり。

トランプ前大統領登場以來のアメリカが分断、報道を賑はしたれば、知らざる人無からむ。「アメリカ第一」を掲げて、アメリカを、國際金融資本の支配より脱せしめんと企て

たるトランプ、反対黨民主黨は固より、國際金融資本の支配するジャーナリズムのみか、CIAの如きアメリカ政府の一部よりも、攻撃を受く。不正なる投票等の手段すら驅使せられたるにや、終に落選し、民主黨バイデン、新しき大統領に就任す。

選挙に於けるトランプ支持者ら、一九六〇年代以前のアメリカと、曾ての「佳きアメリカ」の文化に郷愁を感じ、その後の、有色人種と女性の擡頭により、經濟力と地位を失ひたる、中下層の白人男性を中核とす。

トランプ個人、渠らと同じく、典型的アメリカ人白人男性なれば、些かの有色人種差別と女性差別の嫌ひあるを免れず。されど資産家なれば、公職利用によりて利權を追ふ要なく、愛國者なれば、國際金融資本の經濟支配に、反感を抱く。大統領となりて軍と協力し、國としてのアメリカの、國際金融資本よりの自立を目指し、國際金融資本、及び、之と密接なる關係を結ぶジャーナリズムに、敵視せらる。

國際金融資本とアメリカ、國際社會に於て、一貫して、一體となりて行動し來れり。されど國內にては、時にアメリカ人ら、國際金融資本の意に反して、アメリカ本來の自律的行動を採れること、無きに非ず。第一次大戦後、「國際聯盟」創設を主唱せるも、議會が反対により、之に加盟せざるは、そが好例ならずや。

第二次大戦後、事態はやや變れり。「國際聯合」を創設し、之に加盟せるのみか、それを自國に招致して、本部の建物を提供す。この時期のアメリカ、國際金融資本との關係、最も深く、兩者ほぼ一體化せり。

アメリカの日本占領政策、また然らずや。アメリカの日本占領軍内にありて、國際金融資本と、密接なる關係を有する民間出身の軍人、總司令部民生局に盤踞して、日本の文化の歐米化と日本人が洗腦を企畫し、實行す。渠ら、日本の如き古き國の、傳統文化と獨性を否定し、「國際化」と、西歐「近代」の偏頗なるイデオロギーを、強要せんとせり。

されど我が今知るところに據らば、この時のアメリカ占領軍總司令部、必ずしも、日本に「改革」を強要したる者らのみの、一枚岩には非ざりき。日本軍との苛烈なる戦闘の體驗より、日本の軍人と、そが精神文化に、敬意を抱きたるアメリカ人職業軍人ら、總司令部内にありて、當時の總司令部内の、日本「改革」を推進せる、國際金融資本に近き軍人らと對立せりとかや。ここに、現在のアメリカと通ふ「分斷」ありしか。

占領軍總司令部にて、日本に「改革」を、強要せむと狂奔したる者らに、共產主義者多く、又渠ら共產主義者ら、多數は、國際金融資本に近き者なりき。占領初期は、アメリカと共產主義ロシアとの關係、緊密なりしかば、總司令部内に於ける、國際金融資本に近き者らが發言權、亦強かりけむ。

されど昭和五十年に朝鮮戰爭勃發し、是よりアメリカと共產主義者らとの關係、激變せり。アメリカ國內にては、共產主義者と彼らが協力者、公職より排除せらる。日本占領政策が目的、占領初期の日本の國力破壊ならで、日本の國力再建に變れり。

日本占領政策が變更、當時の日本政府にも、感知せられざるに非ず。占領軍總司令部、共產主義者等の、國際金融資本に近き者らを放逐し、この者らの支援せる日本人政治家ら、汚職事件にて拘留せらる。

今より振り返らば、この時こそ、當時の日本政府の、アメリカが日本占領政策是正の爲、動き得たる唯一の機會ならざりしか。されど日本政府、總司令部に於ける共產主義者ら排除の動きを、的確には察知し得ざりけむ。自由黨も日本政府も、この機を捕ふるを得ず、占領軍内の日本理解者に對し、占領初期の「改革」と、日本の國力破壊の政策の、不當を訴へ、その是正を迫るが如き行動に、出ること無く了りぬ。占領軍内に分斷あれど、當時の日本人も日本政府も、それを日本が爲に、利用する能はざりき。

現下のアメリカの分斷や如何。彼のトランプ、大統領選に一敗したれど、尚意氣軒昂なるやに見ゆ。トランプの敵對するは、國際金融資本にして、是ぞ、彼の、日本占領時に、我ら日本人に、「國際化」と、西歐「近代」の偏頗なるイデオロギーを、強要せる者らと同體ならずや。さりとせば日本の傳統文化を重視し、「侮日的」日本人と戦ふ愛國的日本人、現在の、「アメリカ第一」を掲ぐるトランプ及び彼が支持者と、國際金融資本と一體化せるアメリカ人らとの分斷を、十二分に利用し得るに非ざるや。

日本國內にて、實務に従事し、實際に日本の歩む方向を決定するは、多く「愛國的」日本人ならむ。されど渠ら「愛國的」日本人、大方は寡黙にして、行動の理念を言説化せざれば、外部よりの觀察者ら、「愛國的」日本人の存在を意識すること尠なし。

之に對し、言論、教育、學問に關はる言論人、教育者、學者ら、外部より、容易に存在を感知せらるれば、外部よりの觀察者、日本の行動の基礎なる理念は、言説化せらるること多き「自由」、「平等」、「民主主義」の歐米的理念なりと、誤解す。

斯くて日本の傳統文化を愛し、大東亞戦争こそ、日本の世界に爲したる最大の貢獻なれと確信する「愛國的」日本人、外部より無視せられ、「愛國的」日本人と「國際的」日本人の對立に、起因する日本の分斷、外國人に意識せらるること無し。況んや日本政府、國際社會に於て、歐米の好意と支援を得むため、日本を「西側の一員」にして、「歐米と價値觀を同じうする國」なりと、強調するに於てをや。

民生局にて、歐米的理念もて、日本を改革せんとせる民間出身者、さにあらず。一方的に日本の傳統文化を、「封建的」なりとて糾弾し、日本人に歐米的理念を強制せり。

今も日本國民、「愛國的」日本人たらずして、半ばはアメリカ占領軍に、強制せられたる歐米的理念を信奉し、「愛國的」日本人と對立して、日本の分斷するは、必ずしも曾てのアメリカの日本占領政策に據るに非ず。

平素日本人の間にて、占領下のアメリカの、日本人が洗脳を烈しく糾弾す。この「愛國的」日本人、日本敗戦後の新聞報道、學者の論說、學校教育の内容を是認し、歐米「近代」の諸原理が欺瞞と偽善性に眼を瞑り、そが人類全體の、守るべき基本原理なりと説く「歐米かぶれの」、「國際的」日本人らに、憤懣やる方無かるべし。兩者、同じ日本人なれども、共に天を戴かず。

我が如き「愛國的」日本人、現在の日本に尠なからざれば、外部の者らの認めざると雖も、現在の日本の、分斷するを認めざるを得んや。

されば現在の日本の分斷、我にとり現下の日本の、何としても克服すべき最大の難問なり。日本人と日本社會を律する基本原理を知らず、そを知るを急務とも考へず、ひたすら歐米が「近代」の諸原理を考究するのみにて、いかにして現在の日本の直面する多くの困難に立ち向かひ、そが解決の方圖を諮るを得むや。日本の問題は日本の問題ならずや。全てが「先進國共通の問題」なりや。

されどされば歐米人ら、一部の日本を知悉せる専門家を除き、日本の行動原理は、歐米と同じく、「自由」、「平等」、「民主主義」の歐米的原理なりと信じて疑はず。

我が如き「愛國的」日本人の存在も、現在の日本の、「愛國的」日本人と「國際的」日本人による分斷も、凡て無視せらる。現に我、最近のアメリカの論說に、アメリカの如き分斷無き日本を羨むが如き言説を讀みて驚けり。

日本を良く知り、日本の行動原理は、歐米的原理に非ずと知る歐米人、無きに非ざるも、この人らの平素交友する「國際的」日本人、敗戦後の日本は、歐米的原理を學びて「近代化」し、已にそを體得せりと信じ、そを誇りとすれば、日本を良く知る歐米人ら、敢えて反論するを控ふるに非ずや。

敗戦後の我ら日本人、前述せるが如く、深き絶望と喪失感が故に、占領軍の意向に反抗し得ず。また當時の日本政府首班、幼少期を横濱の、歐米人の闊歩する開港地に、過ごしたる人なるためか、歐米人には抵抗し得ず、「負けつぷりをよくする」とて、萬事、占領軍の意向に従へり。

日本國內にて、實務に従事し、實際に日本の歩む方向を決定するは、多く「愛國的」日本人ならむ。されど渠ら「愛國的」日本人、大方は寡黙にして、行動の理念を言説化せざれば、外部よりの觀察者ら、「愛國的」日本人の存在を意識すること尠なし。

之に對し、言論、教育、學問に關はる言論人、教育者、學者ら、外部より、容易に存在を感知せらるれば、外部よりの觀察者、日本の行動の基礎なる理念は、言説化せらるること多き「自由」、「平等」、「民主主義」の歐米的理念なりと、誤解す。

斯くて日本の傳統文化を愛し、大東亞戰爭こそ、日本の世界に爲したる最大の貢獻なれと確信する「愛國的」日本人、外部より無視せられ、「愛國的」日本人と「國際的」日本人の對立に、起因する日本の分斷、外國人に意識せらるること無し。況んや日本政府、國際社會に於て、歐米の好意と支援を得むため、日本を「西側の一員」にして、「歐米と價値觀を同じうする國」なりと、強調するに於てをや。

現在の日本の分斷、我にとり現下の日本の、何としても克服すべき最大の難問なり。日本人と日本社會を律する基本原理を知らず、そを知るを急務とも考へず、ひたすら歐米が「近代」の諸原理を考究するのみにて、いかにして現在の日本の直面する多くの困難に立ち向かひ、それが解決の方圖を諮るを得むや。日本の問題は日本の問題ならずや。全てが「先進國共通の問題」なりや。

歐米人ら、一部の日本を知悉せる専門家を除き、日本の行動原理は、歐米と同じく、「自由」、「平等」、「民主主義」の歐米的原理なりと信じて疑はず。

我が如き「愛國的」日本人の存在も、現在の日本の、「愛國的」日本人と「國際的」日本人による分斷も、凡て無視せらる。現に我、最近のアメリカの論說に、アメリカの如き分斷無き日本を羨むが如き言説を讀みて驚けり。

(令和三年一月二十三日受附)